



第41回 ナショナル・トラスト全国大会

自然を守るために土地を買う

— 自然を守りたい人々への提案 —

報告書

2023年12月9日（土）

ワテラスコモンホール（東京都千代田区）

欲しい未来へ、寄付を贈ろう。



主催：（公社）日本ナショナル・トラスト協会
後援：環境省、日本ビオトープ管理士会
協賛：（株）竹中工務店、三井住友信託銀行（株）



公益社団法人
日本ナショナル・トラスト協会
The Association of National Trusts in Japan

「ナショナル・トラスト全国大会」は、年に一度、ナショナル・トラスト活動について、より多くの方々に知ってもらうとともに、トラスト団体や支援者の皆様との交流を図るために開催しています。

約1年前に開かれた生物多様性の国際会議（COP15）では、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として守る「30by30」が世界目標として採択されました。生物多様性の保全上、重要な土地を確保するトラスト活動は、この目標達成に大きく貢献する民間の取り組みです。

今回は、土地の買い方に焦点を当て、国内外の実践例を学びながら、日本のトラスト活動のさらなる推進に向けて考える機会としました。

プログラム

開 会 （公社）日本ナショナル・トラスト協会 会長 池谷奉文

ご挨拶 （公社）日本ナショナル・トラスト協会 顧問 中川雅治
環境省 大臣官房審議官 堀上勝

講 演 「緑の回廊プロジェクト ～森がつながれば、動物たちのいのちもつながる～」
認定NPO法人 ボルネオ保全トラスト・ジャパン 事務局長 青木崇史

トラスト団体からの報告

NPO法人 はとやま環境フォーラム 代表理事 愛場謙嗣
(公財) 天神崎の自然を大切にする会 代表理事 土永知子
認定NPO法人 霧多布湿原ナショナルトラスト 理事長 小川浩子

活動報告 （公社）日本ナショナル・トラスト協会 総務部長 中安直子

閉 会 （公社）日本ナショナル・トラスト協会 副会長 漆畑信昭



開会

公益社団法人 日本ナショナル・トラスト協会
会長 池谷奉文



日本の美しい自然を守り、未来の人たちに手渡していくことが当協会の主な仕事です。自然を守るためには、生態ピラミッドのベースである土地を取得することが必要です。当協会はこれまでに 58 か所、1,753ha の土地を取得し、会員団体のトラスト地を合計すると約 14,000ha の土地が全国で守られています。我々の生存基盤である生物多様性が減少している中、こうした活動は今後ますます重要になってきます。

近年の国際的な動きとして、ネイチャーポジティブと 30by30 目標が約束されました。これらを実現していくためには、市町村を中心に行政が域内の自然を 30%以上確保するとともに、民間セクターも、家庭の庭や企業の社有地などで取り組んでいくことが重要です。先日、ナショナル・トラスト発祥地の英国でその実情を見てきたのですが、自然を増やすためには面積だけでなく質も大切で、トラスト地内にビーバーを導入して自然の質を高める湿地再生プロジェクトなどが進められていました。また、2021 年に環境法を制定し、都市開発など行う際には、生物多様性の価値が開発前と比べて 10%以上、上回ることが義務づけられるなど、先進的な取り組みが進められています。

当協会も全国組織として、今後もネイチャーポジティブと 30by30 に積極的に関わっていきたいと思っています。これからも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



ご挨拶

公益社団法人 日本ナショナル・トラスト協会
顧問 中川雅治



協会がトラスト地の取得を開始して 15 年が経ち、貴重な自然を守っていただいていることに心から敬意を表します。COP15 では、2030 年までに陸と海のそれぞれ 30% 以上を保護区として守る 30by30 目標が設定されました。この目標の達成に貢献するナショナル・トラスト運動は、今後ますます重要になってくると思います。

義理の父親である原文兵衛は、昭和 56～57 年に環境庁長官を務め、イギリスのナショナル・トラストの日本版を構築しようと、庁内に研究会を立ち上げ、制度の礎を作ろうとしました。その後、平成 4 年に社団法人日本ナショナル・トラスト協会が設立され、義父は会長を務めました。以来 30 年以上経ちましたが、その間、多くの皆様方のご努力によって日本のトラスト運動が発展してまいりました。そして現在、国内だけではなく海外の実践例を学びながら、30by30 の達成に向け多くの方が活動しておられることに感動を覚えます。

私自身も平成 14 年に環境省の事務次官、平成 29 年に環境大臣を務め、2022 年 7 月に国会議員は引退しましたが、今後も環境問題に取り組み、少しでもお役に立てるよう努力してまいりたいと思います。

環境省 大臣官房審議官 堀上勝



本日はお招きくださりまして、ありがとうございます。41 回目となる大会が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

以前、私が生物多様性の担当室長をしていた頃にもこの大会に参加させていただき、漆畑副会長から叱咤激励いただいたことをよく覚えています。その後も、トラストや自然保護の活動をされている皆様と関わる中で、非常にご尽力されていることを学びました。地道な活動を長く続けることの大事さ、大変さを目の当たりにし、本当に頭が下がる思いです。

自然は地球を支える源であり、きちんと守って後世に伝えることが我々の責務だと思っています。最近では農水省や国交省でも自然環境を保全する機運がかなり高まっております。環境省では、30by30 目標達成のために、民間や自治体の方々が自ら保全活動をしているところを自然共生サイトとして認定する取り組みを今年度から始めました。トラスト地の中でもアマミノクロウサギ・トラスト 3 号地を認定させていただきました。これをさらに広げ、来年は、国や県、市町村も連携できるような仕組みで制度化していく動きもありますので、ぜひ皆さんのお力添えをいただき、我々も支援していきたいと思っています。

講演

緑の回廊プロジェクト

～森が繋がれば、動物たちのいのちもつながる～

認定 NPO 法人 ボルネオ保全トラスト・ジャパン 事務局長 青木崇史



私たちはボルネオ島北部、マレーシアのサバ州にあるキナバタンガン川沿いで活動しています。50 年前は熱帯雨林に囲まれ、生物多様性の宝庫でしたが、1970 年代から始まったパーム油生産で流域の 85% がアブラヤシのプランテーションとなり、野生動物にとっては厳しい環境になってしまいました。パーム油は世界で最も消費されている植物油として人類の生活に浸透し、経済作物としては非常に優れているのですが、それがボルネオの自然を破壊しています。

そのような中、現地政府から相談を受けたのがきっかけで、森を買い取って守り未来へつないでいこうと、2008 年にボルネオ保全トラスト・ジャパンを設立しました。野生生物の生息地を森などでつなぎ、その移動や繁殖、餌をとる機会を増やそうという「緑の回廊プロジェクト」に取り組んでいます。場所は違えど、本日お集まりの皆さんと志は全く一緒です。その後、日本での資金調達を開始し、個人・法人の寄付で 1.64 億円集め、現在 104ha がボルネオ保全トラストの名前で管理されています。目標面積は 800ha です。

土地を買うときは、地元住民の生活を大切にします。「自然環境保護活動」という大義名分を理由に安く買いたたり、現地の人が不利になるような条件で土地を買ったりしてはいけません。それでは歓迎されないのです。きちんとしたルートと適正な価格で、現地の人の納得の上、譲ってもらう必要があります。

資金調達については、共感してくれる人たちをいかに増やすかが最重要の課題です。私たちの資金は寄付が 9 割で、事業収益が 1 割です。中でも法人の寄付が 8 割を占めます。きっかけを増やし、いかにボルネオの素晴らしさや生物多様性を知ってもらうか、共感の共有が重要です。自分たちだけではなく、周りの支援者にも大切に思ってもらわなければならないのです。困難も多いですが、使命感を持って 15 年間活動してきました。ぜひ皆さんにもボルネオに関心を持っていただけたら幸いです。



トラスト団体からの報告 1

熊井の森を守るトラスト活動の立ち上げ

NPO 法人 はとやま環境フォーラム 代表理事 愛場謙嗣



私たちが活動しているのは、埼玉県鳩山町にある約 100ha の「熊井の森」です。鳩山町にはゴルフ場が 5 つ、ニュータウンもあります。この森もゴルフ場になる予定でしたが、事業主が倒産し、森の一部が町に寄付された経緯があります。その後、太陽光発電の開発の話が持ち上がり、何とかしなければと思いトラスト活動を始めました。

太陽光発電の開発予定地を買うのは金額が合わず無理でしたが、その周囲 7 か所の地権者に声をかけて、2.7ha の土地をトラスト活動用地として確保できました。2 か所はクラウドファンディングで寄付を募り、5 か所は「ナショナル・トラスト活動助成」を通じて土地購入資金を確保しました。現在、太陽光発電の話は沈静化しています。

活動するにあたり問題だったのは、誰も「熊井の森」のことを知らなかったことです。なぜここをトラスト地にしたのか、森の価値とは何かを示す必要があり、まずは総称する名前のなかった里山を「熊井の森」と名付けることから始めました。自然、文化、農業の点から価値を再発見し、それらをクローズアップする様々なイベントや広報を続けてきました。

もう一つ大切なことは、自然保護団体のイメージの刷新です。自然保護団体は開発に反対で、地域振興に非協力的と思われがちで、地元の方々から一歩距離を置かれることが多くありました。私たちは、自然保護団体であるとしっかり説明した上で、地元の活性化にも関わりたいと伝えていきました。地元の悩みに寄り添うために、獣害対策や地域の魅力発見に協力したり、里山に関心をもってもらうための写真展、自然学校などの取り組みもしています。トラスト地に看板を立てる際も、説明会を開くなどして、丁寧に説明しながら地元の理解を得る努力をしたつもりです。このような活動を積み重ねたことで、少しずつ地元を受け入れてもらえるようになったのではないかと思います。今年は、町に申請していたトラスト地にかかる固定資産税の減免が実現しました。

土地を取得する手段として始めたトラスト活動ですが、今では、自分たちの居場所づくりの活動でもあると考えるようになりました。トラスト活動は土地を買って終わりではありません。森を守る苦勞と悩みを地元の方々とは分かち合うスタート地点に着いたばかりで、これからが大変だというのが実感です。



トラスト団体からの報告 2

天神崎の開発を防ぐための民有地の取得状況

公益財団法人 天神崎の自然を大切にする会 代表理事 土永知子



会の歴史は 1974 年に遡ります。天神崎は県立自然公園に指定されており、別荘地造成の許可申請が開発業者から県に出されていることを知った外山八郎先生が、会を設立しました。「守る会」でないのは、この運動には敵がいてはいけない、一緒に大切に仲間を増やそう、という外山先生の強い願いが込められています。署名を集めて県に陳情に行っても受け入れてもらえませんでした。諦めずに募金活動を進め、最初の保全地を購入しました。その後、県と市も公費で別荘予定地を購入しました。第 1 回ナショナル・トラスト全国大会が天神崎で開かれたのはこの頃です。2015 年には吉野熊野国立公園に編入されました。天神崎は市民運動ではありますが、環境省や県、市の協力のおかげで活動が 50 年間継続してきました。

これまでに買い上げた土地は 9.6ha で、目標の 53% です。土地の管理については、陸上や海底の清掃活動や草刈り、植樹、サンゴ群集のモニタリング、湿地のビオトープ化などを行っています。また、情報発信と普及活動にも取り組んでおり、春の観察会には 170 名が参加し、校外学習には例年 20 校ほどが来訪しています。昨年、設置したライブカメラは観光や防犯に役立っています。活動を進めるにあたっては、市民に良さを知ってもらい、地元の方に愛されるのが何よりも大事です。

土地購入の方針として宅地は原則買いませんが、宅地や畑地を買ったら自然林に戻すため植樹します。以前、民家近くの山林を購入し、管理費がかかり過ぎてしまったことや、交渉の時に地権者を怒らせてしまったこともあり。土地購入にあたっては、土地を代々受け継いでこられた地権者の気持ちを大事にしなければいけません。また、専門家に入ってもらい、公正な土地価格を査定してもらう必要があります。

会員数の減少やオーバーツーリズム、洋上風力発電の計画など課題はいろいろあります。今後は土地の買い取りを進めるとともに、学校とのつながりを大事にし、SNS を利用した広報を通じて若い世代にもサポーターを増やしていきたいと考えています。



1990年頃 民家、畑、別荘があり、別荘予定地は裸地のまま



2020年頃 民家は1軒、別荘は1軒のみになった。
購入した別荘予定地は、植樹して緑になった。

トラスト団体からの報告3

ナショナル・トラストで進む民有地の保全

認定 NPO 法人 霧多布湿原ナショナルトラスト 理事長 小川浩子



私たちは霧多布湿原のファンづくり、動植物の調査や湿原の復元、そしてナショナルトラストという三本柱で活動を展開しています。

湿原には様々な役割があります。湿原のミネラルによる海産物や牧草の生育という供給サービスや、雨水の吸収、防災・減災(Eco-DRR)、二酸化炭素の貯留・吸収などの調整サービス、観光資源や科学教育への利用など文化的サービス、野生動植物の生息地として生物多様性の保全の役割も担っています。

私たちの活動は1986年に「霧多布湿原にほれた会」から始まり、その後「霧多布湿原ファンクラブ」として、地域の人たちだけでなく、全国に情報発信し仲間を増やす活動を始めました。そして2000年に「霧多布湿原トラスト(現霧多布湿原ナショナルトラスト)」としてNPO法人となりました。

2000年からトラスト地の購入を始め、初年に約174haを保全(購入・借上)して以来、継続的に土地を取得し、2023年9月現在で1,158haの湿原を保全しています。霧多布湿原3,168haのうち、民有地が1,200haあると言われています。2008年には、藻散布沼周辺のタンチョウやオオワシが見られる生物多様性に富んだ土地を、ナショナル・トラスト活動助成をいただき購入することができました。

2009年に50万坪を1,200万円で購入した際は、私たちの湿原保全基金では足りなかったもので、会員だけでなく一般の方々にも寄付を募ったところ、半年程で資金を集めることができました。たくさんの人たち、団体、企業の皆様が、熱い思いを持って協力いただいていることを強く実感したプロジェクトでした。私たちの活動は、様々な方たちに支えられていることを、いつも忘れてはいけないと思っています。

これからは、霧多布湿原を残していくために必要な、周辺の森林地帯も含む民有地の買取りを進めるとともに、今後、漁業の廃業などによる湿原周辺の土地の放置や、環境に配慮のない太陽光パネルなどの建設を注視していきます。私たちだけでなく、この町のひとりひとりがこの湿原を、そして、各地でそれぞれの自然を大切にしたいという気持ちが必要です。この湿原を未来の子供たちに引き継ぐために、美しく変化に富んだ湿原を皆さんと一緒に残していきたいと思っています。



活動報告

公益社団法人 日本ナショナル・トラスト協会
総務部長 中安直子



本日は41回目の大会ですが、これは協会の前身の「全国の会」の結成から41年目でもあります。社団法人である当協会は29の団体が構成メンバーとなって運営しています。協会自らも2007年から土地を取得し始め、現在58か所のトラスト地を所有しています。最近のトピックスとしては、環境省の自然共生サイトにアマミノクロウサギ・トラスト3号地と歌才湿原トラストが認定されました。

各地のトラスト団体を支援する取り組みとしては、自然保護助成基金との共催による「ナショナル・トラスト活動助成」を通じて14団体に土地購入費用を助成し、約158haの土地確保につながりました。また普及啓発や、全国のトラスト団体共通の課題である土地税制についての提言活動、企業との連携にも力を入れています。

世界を見渡すと、発祥の地、英国ではナショナル・トラストがその所有地で自然再生事業を積極的に進めています。土地を確保するだけでなく、ビーバーを導入したり、直線化した川を蛇行させて湿地を再生するなど、その土地の自然の質を上げる取り組みを行っているのです。民間のトラスト団体がこうしたプロジェクトを牽引しているのを見聞きすると、私たちもたいへん刺激を受けます。このような世界の動きも参考にしながら、日本でのナショナル・トラストがさらに進むよう、皆様と一緒に取り組んでいきたいと思っています。



© National Trust Images/Nick Upton

閉会

公益社団法人 日本ナショナル・トラスト協会
副会長 漆畑信昭



本日は皆様、長時間にわたりありがとうございました。ボルネオ保全トラスト・ジャパンの「森がつながれば、動物たちのいのちもつながる」のお話は非常に興味深く、面白くお聴きしました。また各団体のいろいろな発表もあり、皆さんそれぞれの努力が大変よく分かる内容だったと思います。今後ともさらに活動을続けて、より良いナショナル・トラスト運動を進めていただければと思います。本日はありがとうございました。

交流会

会場：ワテラスコモン 3F カフェ「TERRACE 8890」

交流会には、講演者の方々をはじめ、各地のトラスト団体・自然保護団体の関係者や支援者の皆様など、37名の参加がありました。講演者への質問や、お互いの活動についての情報交換など活発な交流が行われ、盛況のうちに終了しました。

参加団体(会員団体など)

認定 NPO 法人 阿蘇花野協会
(公財) 柿田川みどりのトラスト
(公財) かながわトラストみどり財団
(公財) 鎌倉風致保存会
認定 NPO 法人 霧多布湿原ナショナルトラスト
(公財) 埼玉県生態系保護協会
(公財) 自然保護助成基金
(公財) 妻籠を愛する会
(公財) 天神崎の自然を大切にする会
NPO 法人 トラストサulun 釧路
(公財) 日本生態系協会
NPO 法人 はとやま環境フォーラム



公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-3-20 音羽ビル
TEL 03-5979-8031 FAX 03-5979-8032
2024 年 2 月発行 禁無断転載



託された未来をひらく

京都市北区中川地区で生産される北山杉は、約600年の歴史を誇る銘木であり、それらが織りなす素晴らしい風景は、京都のみならず日本が誇る貴重な自然資本です。

文豪 川端康成は、小説『古都』※で「じつに真直ぐにそろって立った杉で、人の心こめた手入れが、一目でわかる。銘木の北山丸太は、この村でしか出来ない。」とその美しさを讃えました。 ※新潮社、1968年
脈々と受け継がれてきた伝統技術と、北

山杉ブランドを維持・継承することは、京都の歴史および日本の木造建築、木の文化のさらなる発展につながると考えています。私たちはその地域の方々とともに、その活動に参画しています。

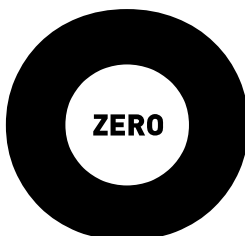
三井住友トラスト・グループは、「信託の力で、新たな価値を創造し、お客さまや社会の豊かな未来を花開かせる」ことをパーパスとして掲げ、幅広い信託機能を活用し「自然資本の保全や地域資源の活用」を支援していきます。



2050



CO2



ライフサイクル CO₂ゼロへ。
竹中工務店が描く設計図。

人類が誕生して約3万年。
産業革命以降、わずか200年ほどの間に
地球環境にもたらした変化は、気候変動や
生物多様性の喪失という重大な危機を
招いており、脱炭素社会に向けた取り組みが
すべての人々に求められています。

私たち竹中工務店は、カーボンニュートラルな
社会を加速させるためには、建物をライフ
サイクル全体で捉えることが大切であると
考えます。建築時だけでなく、資材の選定や
製造時、省エネ・再エネを図る建物の運用時、
解体や廃棄時などにおいて、建物に関わる
ステークホルダーの皆様と協調を図りながら、
様々な環境への取り組みを積極的に推進
していきます。

「環境と調和する空間創造に努め
社会の持続的発展に貢献する」
竹中工務店は、この環境方針のもと、2050年
までにCO₂を100%削減することを
目標に、だれもが健康・快適で豊かに暮らせる
社会の実現を目指します。

想いをかたちに 未来へつなぐ



株式会社 竹中工務店

〒541-0053 大阪市中央区本町4-1-13 Tel.06-6252-1201
〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 Tel.03-6810-5000

もっと詳しく知りたい方はこちらへ

